

2026年度(令和8年度)学校評価自己評価表

福山市立至誠中学校区	校番 33	福山市立至誠中学校
最終更新日		2026年(令和8年)4月15日

I 福山市

めざす姿	すべての子どもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現
------	---------------------------------

II 中学校区

<p>前年度学校運営協議会(学校関係者評価)の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・義務教育終了段階のこどもの姿を共有し、教育活動の充実を図る。 ・小規模校の特色を生かした教育活動を推進する。 ・学力向上に向けて、実態に応じた指導方法の工夫・改善に取り組んでほしい。 	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力の定着や学習習慣の確立及び基礎体力に課題がある。 ・ふるさとに愛着をもつ児童生徒が多く、積極的に地域と関わる学習に取り組むことができる。 ・自分の考えを他者に伝える力が十分でなく、自己肯定感が低い児童生徒がいる。 	<p>育成する資質・能力</p> <p>めざすこども像(義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>主体的に学び合う力</p> <p>自ら課題を発見し、自分で考え、協働して解決することができるこども</p> <p>○授業づくり(学力向上部会) 単元で『身につけるスキル』を明確にし、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりに取り組み、学力の定着・向上を図る。 ○自己理解を深め、自己肯定感を高める(生徒指導部会) 基本的な生活習慣を確立し、心身ともに健康な子どもたちの育成を図る。</p>
--	---	--	---

III 自校

<p>学校教育目標</p> <p>自立的に生き、未来を拓く生徒の育成</p>
--

<p>現状</p> <p><生徒> 純朴で素直であるが、自分で考え、判断し、行動することが苦手で、指示待ちになることが多い。また、自己肯定感が低く、粘り強く取り組むことに課題がある。</p> <p><授業> 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めているものの、基礎的・基本的な知識及び技能の習得に重点がおかれた授業も多く、一層の授業改善が必要である。また、主体的に学びに向かうためのルールやマナーとしての学習規律についての指導の継続が必要である。</p>
--

市学調	国語		数学	
	正答率	40%未満	正答率	40%未満
新中2	62.5(+2.6)	6.3(-12.4)	56.9(-1.2)	25.0(-2.9)
新中3	59.4(-7.4)	7.7(-3.1)	42.6(-7.6)	57.7(+20.3)

<p>育成する資質・能力</p> <p>めざすこども像</p>	<p>「知識・技能」を土台とする「主体性」「問題解決力」「協働力」</p> <p>1年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科の基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている。 ・知識・経験から課題を発見し、解決策を提案し実践することができる。 ・課題を解決するために収集した情報を比較・分類・整理し、方法を工夫しまとめ、発信することができる。 ・自らの考えを持ち、他者とのかわりの中で自らの意見を深めることができる。 ・自分に自信を持ち、目の前の課題を自分のこととして捉え、取り組むことができる。 <p>2年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識・技能をもとに、自分の考えをまとめ、表現する力を身に付けることができる。 ・知識・経験・日常生活から課題を発見し、主体的・計画的に解決のための活動に取り組むことができる。 ・課題解決のため計画的に収集した情報を分析・評価し、相手・目的に応じてまとめ方を工夫し、わかりやすく発信することができる。 ・他者の意見を肯定的にとらえ、協働して互いの考えを生かし、発展的に物事を考えることができる。 ・課題に直面しても自らの責任を果たす努力をし、課題解決のために他者と協力して行動できる。 <p>3年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識・技能をもとに、向上心をもって他者との交流の中で、自分の考えを深めたり、論理的に表現したりする力を身に付け、地域や自分の将来に活用していくことができる。 ・知識・経験・社会状況を関連付けて課題を発見し、協働的・計画的に取り組む、解決の過程や結果を評価することができる。 ・課題解決のために多角的に収集した情報を分析・評価し、簡潔で説得力のある内容にまとめ、効果的な方法を工夫して発信することができる。 ・集団や他者の中で、折り合いをつけながら互いに良い部分を引き出しながら、建設的な関係を作ることができる。 ・課題に向き合うことで自らの責任を果たし、他者と協働して、問題解決し、その結果に責任を持つことができる。
<p>研究</p> <p>テーマ</p> <p>内容等</p>	<p>情報を整理・分析し、自分の考えを自分の言葉で語る生徒の育成 ～「聞き取り」、「読み取り」、「説明する」授業を通して～</p> <p>単元で身につけるスキルを明確にし、主体的・対話的で深い学びができる授業実践</p>
<p>めざす授業の姿</p>	<p>○基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る場面のある授業【知】</p> <p>○学習者が問いをもって学習に取り組み、振り返りを通して次の学びにつなげることができる授業【主】</p> <p>○他者との協働により、自分の考えを広げ深める学びのある授業【協】</p> <p>○根拠(教科のことば等)をもとに、自分の考えを他者に説明する授業【問】</p>

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立至誠中学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
							□指標に係る取組状況	加え評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況	加え評価	達成評価	総合評価
3	基礎的・基本的な知識・技能の定着と思考力・判断力・表現力の育成		一部新規	基礎・基本の定着	<ul style="list-style-type: none"> • 学びに向かう姿勢の定着を図る。 • 各教科において、基礎的・基本的内容の定着のための取組を工夫する。 • 家庭学習（自主学習ノートやICT活用）に対する指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> • 福山市学力定着状況調査における標準スコアの向上 • 学力向上のための自主ノートの取組ができています。90%以上 								
				★	主体的な学びの促進	<ul style="list-style-type: none"> • 思考を促す問いを設定する。 • 個→協働→全体の学習過程を設定する。 • 学習の振り返りを充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 「主体性」「見通し」についての肯定的回答90%以上 • 「表現」についての肯定的回答65%以上 							
3	豊かな心と社会性の育成		★	継続	<ul style="list-style-type: none"> • 地域の特徴を生かした教育活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> • プロジェクト型学習の考え方を生かした地域貢献のための体験活動・探究的な学習の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> • 「地域に愛着を持っている」の肯定的評価を80%以上 • 「地域の行事に参加している」の肯定的評価を80%以上 							
				継続	生徒の自主的、実践的な態度を育成する教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> • 行事等の目的を明確にし、生徒と共有し、精選と充実を図る。 • 自治的な活動を充実させ、社会性を養う。 • 行事やボランティア活動等を通して自己肯定感を醸成する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 「役割の自覚と行動」「自治的活動」についての肯定的評価を80%以上 • 自分の良さを「自覚」「発揮」についての肯定的回答80%以上 							
3	子どもの学びを支える教育環境の整備		継続	保護者・地域との連携及び情報発信	<ul style="list-style-type: none"> • 学校だより、学級だより、HP等による情報発信を行う。 • PTA本部役員を中心として、随時PTA活動の見直しと充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> • 「メール配信やHP等の充実により学校の情報は適切に発信されている」の肯定的評価を80%以上 • 「学校は、生徒・保護者・地域と連携し教育活動が行われている」の肯定的評価を80%以上 								

		★	一部新規	充実感を得られる働きやすい職場 ・見通しをもって意図的、計画的に教育活動を推進する。 ・行事等のスリム化や時程の工夫により生徒と向き合う時間の確保を行う。	・「仕事にやりがいを感じている」の肯定的評価 80%以上 ・「子どもが自ら学ぶ」授業づくりに充てる時間がある」の肯定的評価 70%以上													
--	--	---	------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。

